



ポスターセッション報告【32】

地域の需要を掘り起こす！「農福連携」に向けた福祉事業所意向調査プロジェクト in与謝野町：調査活動・成果報告

【プロジェクト【32】実施体制】 実施大学：京都橘大学 指導責任者：小山 大介（経済学部准教授） プロジェクト参加学生：小山ゼミ3回生（20名）
事業名：地域の需要を掘り起こす！「農福連携」に向けた福祉事業所意向調査プロジェクト in与謝野町
府内活動地域：京都府与謝郡与謝野町

1. プロジェクトの概要と射程

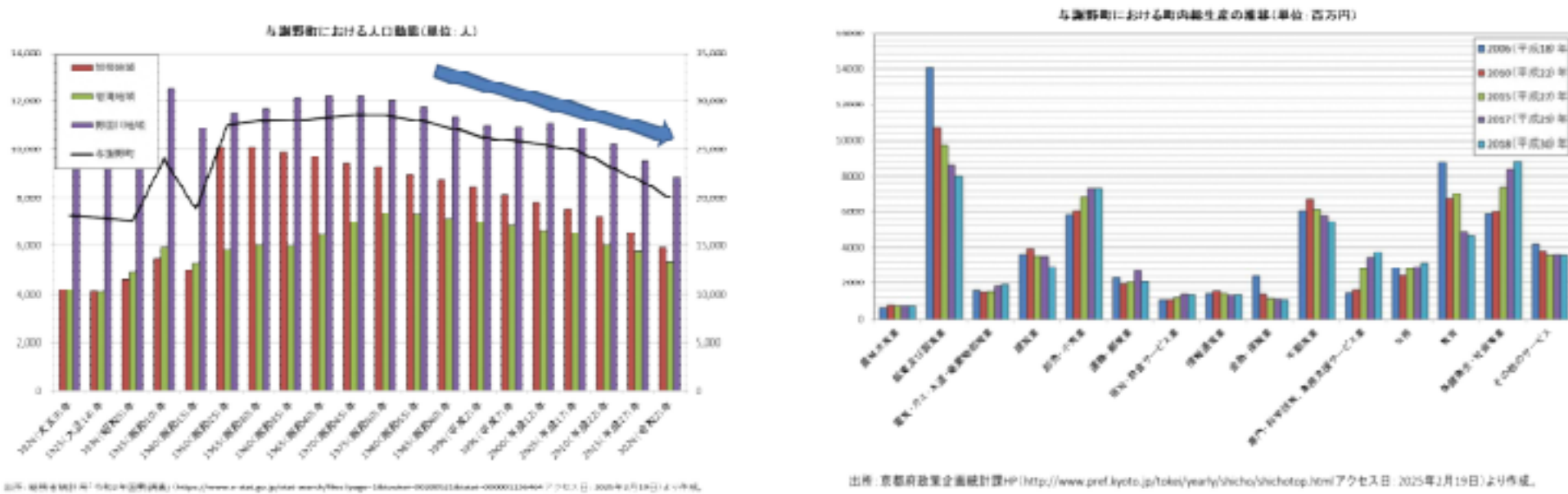
- 「農業」と「福祉」のマッチング調査
福祉事業所で提供される給食の食材を町内産へと転換できないか。
- 食品廃棄物の再利用の可能性調査
福祉事業所や町内で発生する食品廃棄物（食品残渣）を有機質肥料へと活用できないか。
- 地域内での循環型経済形成に向けた調査
地域資源を有効活用し、経済を活性化し、雇用創出や所得増加に繋げることができないか。



町内における農家、福祉事業所を起点とした循環型経済の形成によって、人口減少に負けず、雇用や産業を創出し、若者が集う豊かな地域経済をつくりたいとの思いで調査・分析を実施

2. 与謝野町における「農福連携」の背景

- 与謝野町経済の変容
「農業と繊維のまち」与謝野から多様な産業が息づくまちへ、地域経済構造の変化。与謝野町の人口は減少傾向にあるが、周辺地域よりも多くの住民、事業者を有する地域。
- 「農福連携」の可能性
町内におけるウエイトを増す福祉事業所と農業との連携による地域経済循環、地域内再投資の可能性。



3. 「農福連携」調査の成果

- 福祉事業者へのアンケート調査
アンケートを依頼した31事業所のうち、23事業所より回答。
- 福祉事業者へのヒアリング調査
10月の3日間で、合計6事業所からヒアリング。
- 町内主要農業法人へのヒアリング調査
3農業法人からヒアリングを実施、農業生産の現状など意見交換。
- 利用者への提供食事数と食品残渣についても同時調査
実際の提供食事数、食品残渣量についても、同時に調査。農林環境課と連携し、生産から流通、廃棄、再利用の可能性を調査。



5. 福祉事業所・農業法人ヒアリングの成果

- 福祉事業者は「農福連携」に前向き
福祉事業所の多くは、町内産農作物の利用を促進したい。
- 農家はこれまでの取り組みの蓄積が存在
農家はこれまでも環境にやさしい農業を実践（京の豆っこ肥料など）
- 町内における農業生産拡大は可能
農家・農業法人のなかには、生産量の向上は可能であるとの意向。
- 担い手不足と価格低迷がネック
若い担い手を確保し、農産物価格、所得の向上を進めるか課題。
- 生産計画と需要量の把握の必要性
1年間の農業生産計画と町内需要量とを調整する必要がある。

6. 克服すべき課題と政策提言

- 町内に眠る新たな需要と資源
地域内の農産物活用という需要、そして食品残渣は地域資源となり得る。
- 「農福連携」は新たな産業創出の起爆剤・出発点
農業生産の拡大、雇用創出の可能性は高い。「農福連携」の推進は、循環型経済拡大の出発点となり得る。
- 【提言①】町内需要の把握と供給体制の整備
住民、事業者に町内農産物の生産状況、旬の食材情報の提供。
- 【提言②】農家・福祉事業者の取り組みのマッチング
農福連携体の創設による情報共有、戦略の策定と実践、食育の推進など。

与謝野町内での循環型経済の構築は可能であり、地域内再投資の促進による経済・社会の活性化の可能性は高い。

【謝辞】与謝野町での調査・研究活動にご協力・ご支援頂きました皆さまに心よりお礼申し上げます。